

地域のひろば推進事業 事業所アンケート結果

1. 調査概要

目的 地域のひろば事業実施の状況や、その効果について吟味するため
時期 平成 27 年 12 月
方法 アンケート用紙を使った記名式配票調査
対象 地域のひろば事業実施している団体
回収 27 団体

2. 調査結果

【地域のひろば推進事業（以下「事業」という。）の運営体制について】

問 1 貴事業所で行う事業の広報手段はどのようにしていますか。（複数回答）

事業の広報手段としては、「口コミ」77.8%、「チラシ配布」63.0%、「自治会回覧板」48.1%であり、旧来型の伝達手段が主である。

主として高齢者を対象にしたサービスということでこれで事足りるとする判断だろうか口コミが多いが、口コミが最も多いが、具体的にはどのような人を介してのことなのか、聞いても良かったらう。ヘルパーや民生委員などであろうか。その他には、世話焼きさんの文字も見える。

表 1 事業の広報手段

	度数	列の N %
事業の広報手段		
口コミ	21	77.8%
チラシ配布	17	63.0%
自治会回覧板	13	48.1%
有線放送	6	22.2%
掲示板	6	22.2%
事業所ホームページ	1	3.7%
その他	3	11.1%
合計	27	100.0%

<その他>

「ポスティング」「事業者新聞」「世話焼きさんを通して電話で案内」

問2 事業での困難・苦勞（複数回答）

事業を開催するにあたって困難だったこと、苦勞したことはありましたか」の質問では、「広報・周知」が69.2%で最も多く、ついで「プログラムの内容」57.7%、「職員配置」53.8%、「地域の方の理解」「上司、46.2%、「上司・職員の理解」23.1%などである。

表2 事業での困難・苦勞

	度数	列の N %
事業での困難・苦勞		
広報・周知	18	69.2%
上司、職員の理解	6	23.1%
地域の方の理解	12	46.2%
プログラム内容	15	57.7%
職員配置	14	53.8%
場所がない	0	.0%
予算不足	0	.0%
特に苦勞はなかった	0	.0%
その他	2	7.7%
合計	26	100.0%

<その他>

個人の事業所が行うので営利目的と思われ、受け入れてくれなかった。

送迎職員の配置

問3 貴事業所では、スタッフ全員の理解のもとで取り組んでいますか。

「取り組んでいる」は 55.6%である。事業所に一部の取り組みとして認識されているところも少ないのかもしれない。

表3 スタッフ全員での取り組み

	度数	列の N %
スタッフ全員の理解のもと 取り組んでいる	15	55.6%
取り組んでいるか どちらとも言えない	11	40.7%
取り組んでいない	1	3.7%
合計	27	100.0%

問3-① 「1. 取り組んでいる」とお答えの事業所への質問です。スタッフからは、どのようにして理解を得ましたか。

q3-1 取り組めている理由

- ・出勤扱いおよび手当で支給の理解 ・職員がもともと理解のある人達であった。
- ・第3土曜日は決まっているので、その日のスタッフは仕事の中で組み込んでいる ・年に一回は地域のひろば事業と食事会を開いている
- ・地域密着型事業所は地域との関わりが必要であることの説明 ・遊びに来てくださる方々が笑顔で利用者様と会話したり、昔のことなどを教えて下さることで職員も顔を覚えていただき、一緒に楽しめるようになってきた。

「地域のひろば事業」について地域密着型の施設であることの観点から日頃より定期ミーティング等において地域との交流を取り上げておりました。当ホームはなかなか地域との交流が難しく苦慮する中でひろば事業の実施は一気に問題が解決すると全職員が前向きに取り組んでおります。ただ勤務内での配偶には苦慮しますが。

スタッフは1回も参加していないので、よくわからないという部分が多いが上司が2～3回参加したことがあるので理解してもらって勤務後も組んでもらっています。（昨年4月から老健へ移動した際手伝ってもらえる職員がいなく1人でやっている現状）

スタッフ全員がかかわれるように、6箇所の開催地区に割り振って実施もらっている。

ひろば事業についての説明を行い、必要に応じてその都度の説明と協力を得ている

ほぼ日曜日に開催しているが、自ら協力を志願してくれる。自分達が所属している事業所（今日館）は、地域の人と供にある事、地域の方とのネットワークを図らないといけない事等、職員会議や普段の会話等でスタッフに伝えている。

高齢化社会となり地域で高齢者を支えていく必要があると伝え、地域の相談窓口として事業所を知って頂き、相談しやすい関係づくりの為に地域のひろば事業をする事を説明した。

事業を開催する際少しでも一緒に参加できるように業務の中で動いて下ったりしている

事業所では、今年度から開始しましたが、同法人グループホーム、小規模多機能ホームが、2年前から実地していたため、比較的取り組みへの理解は出来ていたと思います。

周知し理解している

地域の広場事業が、事業所として介護予防につながる事業であるということをきちんと一人一人に説明をしていった。

地域の方と関わる事の必要性や小規模多機能としての役割等をミーティング等で説明した。

地域ひろばを行う事によって地域との交流等得られる事がある事を説明した

地域密着型サービスの意義など事あるごとに説明をしている。

問3-② 「2. どちらとも言えない」又は「3. 取り組めていない」とお答えになった事業所への質問です。その理由は何でしょうか。

q3-2 取り組めていない理由

・土曜日に行っているが、スタッフは子育て中の人が多いため、土曜日は出勤しづらい。 ・通常勤務とは違う利用者対応の為、ライフサポートワーカー2名が主に企画運営している。そのため、スタッフ全員の理解とは言い難い。

グループホーム内での開催でないため、最初は他職員の理解、説明なく担当者のみで行っていたが、現在ひろば事業の理解は得られているが、職員の人員の関係で一緒に取り組めていない。

業務で手一杯の中・地域の広場を推進していくなかで、やはり職員の間で理解を得られないこともあり、通常の業務が遅れたり・利用者の中にはあまり地域の方達にはホームに居る事を知られたくない等、問題が出てきたり段取り不足やスムーズな進行できない事もあったのが事実

事業はL SW 1名に加え、参加者がなじみやすいように当地区在住2名の固定スタッフを配置しています。固定スタッフ以外から積極的な提案や参加はないため、スタッフ全員の理解のもと取り組めていないと考え、2を選択しました。またスタッフへの事業の説明も不足していたと思います。

事業を理解して協力しているスタッフはごく一部で業務として取り組んでいるように感じている。(L SWが計画・準備をして応援スタッフとして関わってもらっている。)

職員配置が困難で休日等も難しい

全スタッフへひろば事業の目的や趣旨を伝えきれていない。 ・ライフサポートワーカーが抱えすぎている(他のスタッフにも協力をもらう)

全職員へひろばの取り組みについての詳しい説明・報告が不十分だから。(取組の計画や内容、効果、経過報告など)

担当のみで動いてしまい、他のスタッフも参加できる環境を作れていない

地域の方への呼びかけをスタッフへ指示すると、とりあえず地域へ出てはくれるのでその点では一定の理解を得られているととれるが、アイデアなどはほとんど出てこない。事業所としての進め方の問題点も多々あると考えられる。

地域ひろばの実施場所が、公民館のため事業所職員がひろば参加者と関わる事がほとんどない状況です。今まで職員の理解を得られているか、確認したことがありません。

【事業プログラムについて】

問4 これまで実施したプログラムを次から選んでください。(複数回答)

プログラムとしては、7割以上に言及されたもの「体操」81.5%、「料理」77.8%、「茶話会」70.4%、5割前後のもの「脳活性化トレーニング」55.6%、「講話」51.9%、「工作」51.9%、「私のアルバム作成」48.1%、「手芸」48.1%、「映画」40.7%である。

	度数	列の N %
実施したプログラム	22	81.5%
体操	13	48.1%
手芸	11	40.7%
映画	6	22.2%
マッサージ	14	51.9%
講話	21	77.8%
料理	14	51.9%
工作	8	29.6%
カラオケ	5	18.5%
生け花	13	48.1%
私のアルバム作成	6	22.2%
相談会	4	14.8%
書道	2	7.4%
川柳	3	11.1%
スポーツ	6	22.2%
アレンジフラワー	19	70.4%
茶話会	12	44.4%
会食	15	55.6%
脳活性化トレーニング	13	48.1%
その他	27	100.0%
合計		

問4-① 問4で好評であったプログラムを順番にその番号を次の()内に記入して下さい。

(1番:)	(2番:)	(3番:)	(4番:)	(5番:)
--------	--------	--------	--------	--------

	1番	度数	列の N %
q4-1a	体操	8	30.8%
	手芸	1	3.8%
	映画	1	3.8%
	マッサージ	1	3.8%
	講話	0	.0%
	料理	7	26.9%
	工作	1	3.8%
	カラオケ	0	.0%
	生け花	1	3.8%
	私のアルバム作成	0	.0%
	相談会	0	.0%
	書道	0	.0%
	川柳	0	.0%
	スポーツ	0	.0%
	アレンジフラワー	2	7.7%
	茶話会	1	3.8%
	会食	0	.0%
	脳トレ	2	7.7%
	その他	1	3.8%
	合計	26	100.0%

2番	度数	列の N %
q4-1b 体操	1	4.3%
手芸	1	4.3%
映画	2	8.7%
マッサージ	2	8.7%
講話	0	.0%
料理	2	8.7%
工作	3	13.0%
カラオケ	1	4.3%
生け花	0	.0%
私のアルバム作成	0	.0%
相談会	1	4.3%
書道	1	4.3%
川柳	0	.0%
スポーツ	0	.0%
アレンジフラワー	2	8.7%
茶話会	2	8.7%
会食	2	8.7%
脳トレ	2	8.7%
その他	1	4.3%
合計	23	100.0%

3番	度数	列の N %
q4-1c 体操	4	19.0%
手芸	0	.0%
映画	0	.0%
マッサージ	1	4.8%
講話	2	9.5%
料理	2	9.5%
工作	0	.0%
カラオケ	0	.0%
生け花	2	9.5%
私のアルバム作成	0	.0%
相談会	0	.0%
書道	0	.0%
川柳	0	.0%
スポーツ	2	9.5%
アレンジフラワー	1	4.8%
茶話会	2	9.5%
会食	1	4.8%
脳トレ	1	4.8%
その他	3	14.3%
合計	21	100.0%

4 番	度数	列の N %
q4-1d 体操	1	7.7%
手芸	0	.0%
映画	0	.0%
マッサージ	1	7.7%
講話	0	.0%
料理	3	23.1%
工作	1	7.7%
カラオケ	1	7.7%
生け花	1	7.7%
私のアルバム作成	2	15.4%
相談会	0	.0%
書道	0	.0%
川柳	0	.0%
スポーツ	0	.0%
アレンジフラワー	0	.0%
茶話会	0	.0%
会食	2	15.4%
脳トレ	0	.0%
その他	1	7.7%
合計	13	100.0%

5 番	度数	列の N %
q4-1e 体操	0	.0%
手芸	1	8.3%
映画	3	25.0%
マッサージ	0	.0%
講話	1	8.3%
料理	0	.0%
工作	1	8.3%
カラオケ	0	.0%
生け花	0	.0%
私のアルバム作成	0	.0%
相談会	1	8.3%
書道	0	.0%
川柳	0	.0%
スポーツ	0	.0%
アレンジフラワー	1	8.3%
茶話会	1	8.3%
会食	0	.0%
脳トレ	0	.0%
その他	3	25.0%
合計	12	100.0%

問5 月平均の事業の開催回数（平成27年度）

月平均の開催回数では月1回が55.6%と最も多いが、2回14.8%、4回も14.8%となっている。平均では1.94回となる。

	度数	列の N %
月平均の開催回数 1.0	15	55.6%
2.0	4	14.8%
2.5	1	3.7%
3.0	2	7.4%
4.0	4	14.8%
5.0	1	3.7%
合計	27	100.0%

問6 事業開催1回あたりの参加人数（平均）

事業開催の1回の参加者は、「11～15人」が44.4%と最も多く、ついで「6～10人」25.9%、「20人以上」が14.8%、「16～20人」が7.4%、「5人以下」が7.4%となっている。

	度数	列の N %
回の参加人数		
5人以下	2	7.4%
6～10人	7	25.9%
11～15人	12	44.4%
16～20人	2	7.4%
20人以上	4	14.8%
合計	27	100.0%

問7 参加者はどのような方法で集めていますか。

参加者を集める方法

・映画やお楽しみ会は自治会の有線放送を前日7時に使用。字近い以外の方には安否も兼ねて電話
参加時に次回の計画を報告 ・新年度は1年の計画を自治会にて配布、支所の窓口に設置 ・口コミも
多くなっている

・回覧板活用 ・口コミ

・口コミが主体 ・参加者が固定してきた3年目には、バス旅行を企画したところ、新しい方の参加が
あった。 ・介護予防総合プログラム参加者に、終了時、地域のひろばの紹介をしている。

・参加者からの紹介等の口コミ ・民生委員の勧誘

チラシ、電話、ポスター、回覧板など（現在、回覧板は行わず）

チラシや口コミ、回覧板、スーパーの掲示板などでの広報活動

チラシ配布、民生委員への声掛け

案内文を参加者、参加見込み者の自宅にお届けしています。 ・参加者にご近所さんにも声をかけてい
ただくようお願いしています。 ・プログラムに応じて、回覧板や有線放送も自治会長様へお願いし
ています。

近隣者の声掛け ・参加された方へお願い ・回覧板（27年12月より）

口コミ、スタッフの声かけ、閉じこもりがちな方に医師が声かけ

口コミ、自治会回覧板、有線放送、掲示板

広報を主として呼びかけている。

最初地域在住の職員の親族に声掛けし、その方々からの口コミやデイサービスの利用者への口コミで広
がっていった

参加されている民生委員さんの紹介や参加者同士の口コミが中心となっています。

参加者からの口コミ

参加者の口コミで増加しきている。

次回の内容を今回開催時に説明する、チラシを配る

自治会での呼びかけ、ボランティアグループの方々等電話にての連絡、参加者の方々の口コミ

自治会長や地域の世話焼きさんにチラシ配布や声かけをしてもらっている。

初めはメンバーの中に地区の民生委員の方がいらっしゃり、近所に声掛けをして下さりました。最近
はすっかりメンバー化しております

新聞（事業所発行）に日時内容記入、また開催前日、当日に地域の方へ声掛けしている

世話焼き人を通して電話で案内

地域の公民会員・婦人会長・民生委員の方や近隣住民の方へお願いし、少しずつですが参加者があつま
っています

地域の総会で話してもらい長寿会メンバー・民生委員などの協力で気になる方へ声かけしてもらったり
している。公民館で行うときは当日の朝自治会長が放送してくださる。

地域の方々の紹介、口コミ等

地域の方の声かけ

問1と同じ

問 8 参加者から事業に関する相談や要望等を受けることはありましたか

「よくある」はゼロだが、「たまにある」69.2%、「ない」30.8%となっている。

	度数	列の N %
相談や要望		
よくある	0	.0%
たまにある	18	69.2%
ない	8	30.8%
合計	26	100.0%

問 8-① 「1. よくある」又は「たまにある」とお答えの事業所への質問です。
それはどのような相談でしたか。具体的にご記入ください。

q8-1f

・介護予防に関すること ・介護保険制度・体調の相談 ・近隣の人に関する相談 ・他地区の地域ひろばの紹介
依頼（友人に教えてあげたい）

・公民館の椅子が欲しいがどのような椅子がよいか。 ・公民館のトイレを和式から洋式に変えたいが補助はないか。 ・施設に利用料金はいくらぐらいかかるか。 ・体の不安。

・参加希望者より、来るのに手続きは？ ・送迎はないか？ ・年齢は？等の簡単な相談

・足の悪い人がいて、自宅の出入りに困っている、とのこと。住宅改修などの方法があることを伝えて頂く。その方は1割負担が納得できないとのことそのまま過ごしておられる。直接本人からの相談はなかった。 ・肺が悪くて冬の間自宅での入浴が心配。（風邪が命取りになるので）冬のみ入浴をして欲しい。一応介護認定を受け、冬のみ入浴支援をうけられた。

「〇〇さんって人がいるんだけど、あの人も誘ってあげたらどうかと思うんだけど」

「近所の～さんの行動が最近おかしい。車に乗せてもらったときに自分の家が解らなかつたりするの」などの自分の相談ではなく、他人の事を話す方が多い。

家電（パソコン、デジカメ等）も使用方法を知りたい。 ・自分の妻が認知症かもしれないけど、どうしたらいいか教えて欲しい。 ・県外の親戚を霧島市に呼びたいが、入居施設の情報がほしい。

介護認定していない家族が入院しているが、退院を言われた。どうすればいいのか。腰痛で家で自分で生活ができない人の家族がどうしても1週間家を空ける。どうすればいいのか。

開催内容に対しての要望「あくまき」「味噌」を作りたいと参加者から声を下さった

参加者から介護保険について ボランティアの方から介護保険ボランティア・ポイント制度について

先々入居するときの手順、ご主人の認知状態、ご本人の不安状態

体調について ・要介護認定について ・友達を誘っていいの

知人が認知症になってしまい、どのような対応をすればいいか。

地域で困っている方の対応についてや介護保険制度について。

認知症サポーターの時同敷地内の義母の今後について

認知症の方が近くにいるとどのように関わればよいかわからないけど自宅に来て一緒にお茶飲みする位しかできない。何か他にできることはないか？ ・介護保険の認定の方法 ・電話による詐欺が多く自分も引っかかってしまった、その対策はどうするのか？

認知症を予防するにはどうしたらいいのか？ ・母が認知症デイサービスなどに行きたがらない。どうすればいいのか？ ・相談機関はどういった場所にあり、どれくらいあるのだろうか？ ・近隣の方で最近様子がおかしい ・介護保険制度のしくみについて知りたい ・介護保険のサービスが知りたい

要介護認定の申請書や・遊びにきたのはいいが認知症の方との接し方がどうしたらいいのかが分からない等の相談内容

【事業効果について】

＜効果ポイントの見方＞

「わからない」を除外して考えると、1に近い点数ほど、「事業効果がある」とみており、4に近いほど「事業効果がない」と評価をしている。全体的には、評価としては3点未満であれば、それなりに事業を評価しているということであり、3点以上の場合には実質的な効果をあまり評価していないということになる。

＜各項目の効果ポイント＞

最も効果ポイントの高いのは、「交流の場・機会」という点である。1.31となる。

その他では、「閉じこもり防止」「福祉・介護情報の啓発」「楽しみや生きがいづくりへの効果」、「介護予防としての効果」は一定の効果を認めている項目と言える。

3以上の項目はないので、一定の効果が認められるものの、「福祉・介護情報の提供」「地域活性化への効果」は2.5を超えており、効果としては薄いという評価ではないか。

	平均値
閉じこもりの防止	1.81
楽しみや生きがいづくりへの効果	2.11
元気高齢者の増加への効果	1.85
交流の場・機会	1.31
介護予防（身体機能の向上や維持）としての効果	1.96
地域活性化への効果	2.50
ネットワーク化への貢献	2.12
福祉・介護情報の提供	2.60
福祉・介護情報の啓発	1.83

問9 「閉じこもりの防止」

事業は、高齢者の閉じこもり防止に効果的であったと思いますか。

	度数	列の N %
閉じこもりの防止 大変効果的であったと思う	7	25.9%
やや効果的であったと思う	11	40.7%
あまり効果的とは言えなかった	3	11.1%
全く効果的とは言えなかった	0	.0%
わからない	6	22.2%
合計	27	100.0%

問9-① 問9に対する意見等を具体的にご記入ください。

- ・「参加者が少なくてもずーと続けて」欲しいとの声がかかれる。
 - ・もともと地域活動の積極的な方が、閉じこもり気味で気になる方を連れて来て下さるケースが複数あった。・内容や事業の趣旨、市の委託事業であることなどが、様々な活動に消極的な人でも参加しやすく、また誘いやすくもあると思う。・閉じこもり防止には回数が多い方がいいと思うが月に1回の参加がきっかけとなり外出の機会が増えたり前向きな気持ちになり人と交流することがふえたとのこと
 - ・月に1回であるが、公民館で地域の仲間に出会えるので楽しみにしているとの声がある。・デイサービスを利用している人も参加しており、交流の場になっている。・送迎することで独りでは参加することが難しい人も参加できている。
- いろいろな場面に参加する人に自宅で1人暮らしの人や、出不精な人にも声をかけてもらうように話している。また以前参加して来なくなった人、入院していた人には電話で様態を聞いて、参加をもとめて、少しは閉じこもり防止になっているように思うが、まだまだと思う。11月のお楽しみ会に初めて参加された男性が「楽しかった」と言ったものの1ヶ月後に自ら死を選ばれた。病気が苦だったとのことであるが、認知症の妻も抱えていたことを、後で知り、早急に何らかの方法を取らなければと思っている。
- そのような方への取り組みができていないため
 まだたくさんの方に来てもらい事しか考えておらず「閉じこもり」には意識出来ていない
 月1回の実地で閉じこもりの防止には十分でないと考えます
 今年度は1回しか開催できていない為
 参加する方はどちらかというと積極的な方が多くなかなか集団の中に声掛けをしても土壇場で来ない方もおおく迎えに行ってもようやく顔を見て下さる現状だが本当はいやなのではないかと思う所もあるので蕎麦打ちやお菓子作りの際には家に持っていき一緒にお菓子を食べるなど最初は無理に誘わずゆっくり信頼関係を構築しながら参加してもらおう方向にしていこうとか検討している。
- 参加メンバーにご主人に先立たれた方がおられます、月1回ではありますが、にこやかに過ごされ楽しみにしておられますので、また参加されることで健康状況も把握できますので、よても良法だと存じます
- 参加者の家族より「今までは家にいるか、病院受診に行っているかでしたが、この事業の菊づくり教室に行くのを楽しみにしている」と言う言葉を頂きました。
- 参加者の方々から「家にいても何もすることもなく弱っていくだけだし、話をする相手もない、ここにきて話をするだけでもいい、出てくるのが大事」との声がある
- 参加者は、普段より病院やデイサービスを利用しておられ、閉じこもりの方々ではないため、出席されていない方の声かけが必要
- 参加者は60歳代～80歳代ですが、元々、自分で移動でき、活動できる方が多いため、閉じこもり防止に効果的だったかは不明です。当ホームからの閉じこもりの方へのアプローチは現状ではなく包括支援センターを通して行っていたと思いますが、今の所参加につながったケースはありません。
- 参加当初は表情もきつく参加者との会話も殆どなかった方が3～4か月後には表情も柔らかくなり、休憩中の会話も弾んでいる様子が伺えている。
- 事業に参加して下さる方は他の活動にも参加されている方がほとんどであったため「閉じこもり防止」という視点で考えると効果的であったかわからない。H27年度より今日館に10分以内(車)の住宅型有料老人ホームへ声かけ数名の方が参加している。その方々からは、普段施設から出る事はほとんどないから外出できとても嬉しいとの声は上がっている。

自宅に一人暮らしの方や配偶者をなくした方々などの支えになるとの言葉をきく・どこにも行けないけど近くで月2回集まって話す場ができて嬉しい・団地に来て間がないが、友人がいなくて淋しい所

人と会ってしゃべる機会になった ・人が集まる場所に行く機会になった

人と話をする事を楽しみにしているとの事であった。

地域の方々との交流のあまりない方等毎月の声掛けに喜んで頂いている

定期的を開催することにより、外出の機会を確保でき、また参加することを楽しみにして下さっている方が多い。

当事業所では、事業に対する解釈が十分とは言えない。今後は地域の中に入ってそこを中心とした事業展開を行いたい。 ・潜在的には閉じこもり気味の方がおられるご様子もうかがっている。

同じ地域に居てもゆっくり話す機会が無い方と「ひろば事業」で、久しぶりに会い話が出来て良かった。 ・月に数回でも外出の機会になっていると思います。

閉じこもり状態になっていた方が、週1回のプログラムを大変楽しみに参加されています。また地域のひろば事業を通して、他参加者との交流を持つことができることを大変喜ばれています。

毎月楽しみとされている方もある 閉じこもりでなく元気な方も参加されている

民生委員さんに閉じこもりの方へお声かけしていただいたが、興味を持たれなかった。うさぎの事業は活動的な方が参加されている。